

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>

びわ湖学習の充実のために

【所長 青木 正士】



1学期の航海が無事終了しました。運航関係者の方々を始め乗船された各校の先生方や関係機関のみなさまのおかげと感謝申し上げます。

今年は、九州での豪雨災害など、各地で異常気象に見舞われ大きな災害となったニュースを見聞きすることが多くなりました。これも、地球温暖化の影響なのでしょう。いつ滋賀県・びわ湖でも同じ事態が起こるかもしれないと考えますと、常に急な天候の変化にも安全な対応ができるように、これまで以上に注意を払い、体制を整えてまいる所存です。

さて、今年度実施している、航海前から航海後までをつなぐ指導計画による探究的な学習の取組により、乗船している2日間のびわ湖学習も充実してきたと多くの報告を受けています。特に、航海前に学校でテーマに沿った学習課題を持たせ、意欲の高まった状態で乗船されると主体的な学習が展開されているようです。

「航海前に勉強したことが、航海中にわかって行動したのでよかった。テーマについて自分の考えを持って、他の人に伝えることができよかったです。友達のよさも見つけられました。」（第8回航海児童）

学び方や考え方にも変化が見られます。これまでのプランクトンウォッチングは、見つけたものの名前を調べるだけの活動に留まっていましたが、現在は「びわ湖の水のにごり調べ」の一環としてプランクトン観察を行っています。プランクトンがいることで魚が育ち人も魚を食べていることや、プランクトンにも固有種・外来種があり、外来種の大量発生で問題になっていたことも学んでいます。

びわ湖の水の透視度調べも、北湖と南湖の透視度を比較するだけでなく、40年前のびわ湖（南湖）の水を再現し、その状態から回復させてきた人々の努力を考えることにつなげています。つまり、現状分析に止まらず、時の流れを考えるきっかけに使っているのです。

「びわ湖のこと知らなくて、ただ大きい湖としか思っていませんでしたが、フローティングスクールにいて思いが変わりました。びわ湖は40年前はすごく汚れ赤潮が発生していましたが、それが今起こらないのは、40年かかっているいろいろな人によってきれいになり、こんなにたくさんの生き物がすんでいるのだなと思いました。」（第3回航海児童）

数年前に開発され、多く活用されるようになった「シジミのストラップづくり」も、ストラップを作る工作活動のみになりがちでした。今は、固有種の多くが存在する貝類の学習として、淡水真珠の母貝となる大きなイケチョウガイや細長いササノハガイ（いずれもびわ湖固有種）の標本を見て、その多様性に気づいたり、大きな貝を育むびわ湖の豊かさを感じたりしつつ、同じく固有種のセタシジミを使ってストラップを作る活動を取り入れているのです。

それぞれの学習プログラム本来の良さを生かして、びわ湖学習が充実するよう取組を進めています。